

参考資料

1 群馬県の現状

(1) 本県の人口の推移等 人口減少社会の到来と少子高齢化

全国の人口の推移を見ると、平成22年にピーク(128,057千人)となり減少していくことが予想されています。

本県の人口の推移を見ると、平成12年をピーク(2,025千人)に減少傾向にあり、直近では、平成22年に2,008人(全国第19位)となっています。

また、本県の高齢化の状況を見ると、直近の平成22年では23.4%となっており、24年後の平成47年には34.0%になり、三人に一人が高齢者になることが予想されます。

一方、出生数及び合計特殊出生率の状況を見ると、直近の平成23年では出生数が15,637人、合計特殊出生率が1.41となっています。昭和40年の27,885人、2.21と比較すると12,248人、0.8となっており、少子化が進んでいることがうかがえます。

人口と高齢化率の推移(群馬県)

		単位:千人														
		昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
		1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2011	2015	2020	2025	2030	2035
人口(全国)		99,209	104,665	111,939	117,060	121,048	123,611	125,570	126,925	127,767	128,057	125,430	122,735	119,270	115,224	110,679
群馬県	総人口(a)	1,606	1,659	1,756	1,849	1,921	1,966	2,004	2,025	2,024	2,008	1,961	1,908	1,845	1,776	1,699
	うち65歳以上(b)	110	131	154	184	215	256	313	367	417	470	537	571	575	574	577
	高齢化率(c)=(b)/(a)×100	6.8%	7.9%	8.8%	10.0%	11.2%	13.0%	15.6%	18.1%	20.6%	23.4%	27.4%	29.9%	31.2%	32.3%	34.0%

出生数と合計特殊出生率の推移(群馬県)

		単位:人													
		昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	
		1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2008	2009	2010	2011	
出生数		27,885	29,429	29,616	25,140	22,917	19,470	19,431	19,445	17,134	17,044	16,310	16,023	15,637	
合計特殊出生率		2.21	2.16	1.99	1.81	1.85	1.63	1.56	1.51	1.39	1.40	1.38	1.46	1.41	

厚生労働省「人口動態調査」を使用

(2) 本県の伝統文化の継承状況

市町村合併による地域活動の広域化や山間地での過疎化が進む中、コミュニティが崩壊しつつあり、地縁的なつながりや人と人との絆が希薄になってきています。

県内の伝統文化継承に係る実態調査を平成20年に実施した結果、神楽・獅子舞等の民俗芸能の約4分の1、祭り・行事の約1割近くが「継承の危機」にあることがわかっています。

伝統文化継承状況

民俗芸能				祭り・行事				
総件数	復活	中断中	廃絶	総件数	復活	危機	中断中	廃絶
855	11	197	23	846	5	26	11	37
(構成比)			24.4%	(構成比)				8.7%

2 群馬県の文化の現状

(1) 文化活動団体数等

文化活動団体数

平成23年において各市町村文化協会に加盟している団体数は3,159団体であり、71千人が活動していますが、平成11年と比較すると団体数は825団体、会員数43千人となっており、団体数及び所属人数ともに減少傾向にあります。

文化活動団体数 (単位：団体、千人)

* 各市町村文化協会加入団体数・所属人数

	H11	H16	H21	H22	H23
団体数	3,984	3,932	3,490	3,375	3,159
所属人数	114	103	83	78	71

(資料) 群馬県文化協会連合会

NPO法人数(文化芸術関係)

平成24年において文化芸術活動を活動分野の一つに含むNPO法人の割合は41.1%(312団体)であり、全国の34.2%を上回っています。また、平成21年に比べ49団体増えています。

さらに、文化芸術活動を主たる活動分野とするNPO法人の割合は9.4%(71団体)となっています。

関連NPO法人認証数

	H18	H21	H24
群馬県	205 (41.7%)	263 (40.9%)	312 (41.1%)
全国計	9,590 (32.0%)	12,909 (33.1%)	15,852 (34.2%)

(資料) 内閣府

* 「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」を、活動分野の一つに含む法人(単位：法人(NPO法人総数に対する割合：%))

* H18及びH21は12月31日、H24は9月30日現在

	H18	H21	H24
群馬県	36 (7.3%)	59 (9.2%)	71 (9.4%)

(資料) 群馬県

* 同分野を、「主たる活動分野」とする法人

* H18及びH21は12月31日、H24は8月31日現在

公立文化会館の主・共催公演数

平成19年度において公立文化会館で主催または共催した公演件数は、438件、全国で第22位となっています。全国平均の468件を下回っています。

また、時系列で見ると、平成10年度に比べ37件となっています。

公立文化会館の主・共催によるホールでの舞台

芸術・芸術公演の件数

(単位：件)

年度	H10	H13	H16	H19
群馬県	475	504	511	438
[全国順位]	[第17位]	[第18位]	[第13位]	[第22位]
全国計	19,210	24,138	20,650	22,014
全国平均	409	514	439	468

(資料) 文部科学省「社会教育調査」

(2) 県民の文化芸術の鑑賞の動向活動

県民芸術祭入場者数

県民芸術祭は、平成 10 年では 83 事業、268 千人の入場者がありましたが、平成 23 年では 14 事業が増え 97 事業となっているものの、入場者数は 190 千人と 78 千人減少しています。

県民芸術祭 入場者数 (単位：千人、件)

	H10	H15	H20	H23
入場者数	268	483	192	190
事業数	83	72	98	97

(資料) 群馬県

公立文化会館入場者数

公立文化会館で主催または共催する公演の入場者数は、平成 19 年度では、270 千人(全国第 16 位)であり、全国平均の 279 千人を 9 千人となっています。

公立文化会館での主・共催によるホールでの
舞台芸術・芸術公演の入場者数 (単位：千人)

年度	H10	H13	H16	H19
群馬県	328	311	303	270
[全国順位]	[第10位]	[第16位]	[第14位]	[第16位]
全国計	11,181	12,283	11,435	13,095
全国平均	238	261	243	279

(資料) 文部科学省「社会教育調査」

美術館・博物館入館者数及び県民会館の利用者数

県立 5 館(美術館・博物館)の年間入館者は、平成 23 年では、505 千人となっており、平成 15 年に比べ+21 千人、平成 20 年に比べ+76 千人となっています。また、県民会館(ベイシア文化ホール)の利用者数(年間のべ人数)は、平成 23 年では 242 千人となっており、減少傾向にあることがうかがえます。

美術館・博物館 入館者数

* 県立 5 館の合計 (単位：千人)

	H15	H20	H23
群馬県	484	429	505

(資料) 群馬県

県民会館(ベイシア文化ホール)利用者数

(単位：千人、%)

	H10	H15	H20	H23
群馬県	362	341	314	242
稼働率	60.4%	62.6%	62.4%	55.3%

(資料) 群馬県

(3) 文化施設数及び地方公共団体の予算

施設数（博物館）

博物館数は、平成23年10月1日現在、23館（全国第20位）となっています。全国平均と比べ4館となっています。

また、人口100万人当たりの博物館数は、平成23年度で、12.0館（全国第21位）となっています。全国の9.9館と比べ+2.1館上回っています。

博物館数（動・植物園、水族館を除く）

（単位：館）

年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	16	18	21	23
[全国順位]	[第25位]	[第24位]	[第20位]	[第20位]
全国計	1,020	1,105	1,154	1,261
全国平均	22	24	25	27

人口100万人当たり博物館数

（単位：館）

年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	7.9	8.9	10.4	12.0
[全国順位]	[第27位]	[第26位]	[第19位]	[第21位]
全国計	8.0	8.6	9.0	9.9

注）本表は博物館法上の博物館を示す。

館数は、10月1日現在。

（資料）文部科学省「社会教育調査」

施設数（文化会館）

文化会館数は、平成23年10月1日現在、42館（全国第16位）となっています。全国平均と比べ+2館となっています。

また、人口100万人当たりの文化会館数は、平成23年度で、21.0館（全国第18位）となっています。全国の14.6館と比べ+6.4館と大幅に上回っています。

文化会館数

（単位：館）

年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	41	42	43	42
[全国順位]	[第16位]	[第17位]	[第16位]	[第16位]
全国計	1,832	1,885	1,893	1,867
全国平均	40	40	40	40

人口100万人当たり文化会館数

（単位：館）

年度	H14	H17	H20	H23
群馬県	20.2	20.8	21.4	21.0
[全国順位]	[第17位]	[第18位]	[第16位]	[第18位]
全国計	14.4	14.8	14.8	14.6

注）館数は、10月1日現在

（資料）文部科学省「社会教育調査」

施設数（公民館）

公民館数は、平成 23 年 10 月 1 日現在、225 館（全国第 33 位）となっています。全国平均と比べ 87 館となっています。

公民館数

（単位：館）

年度	H 1 4	H 1 7	H 2 0	H 2 3
群馬県	227	227	224	225
[全国順位]	[第35位]	[第34位]	[第34位]	[第33位]
全国計	17,947	17,143	15,943	14,681
全国平均	381	364	339	312

注）館数は、10月1日現在

（資料）文部科学省「社会教育調査」

施設数（公立図書館数）

公立図書館数は、平成 23 年 10 月 1 日現在、53 館（全国第 22 位）となっています。全国平均と比べ 16 館となっています。

公立図書館数

（単位：館）

年度	H 1 4	H 1 7	H 2 0	H 2 3
群馬県	38	37	38	53
[全国順位]	[第28位]	[第30位]	[第31位]	[第22位]
全国計	2,714	2,955	3,140	3,249
全国平均	57	62	66	69

注）館数は、10月1日現在

（資料）文部科学省「社会教育調査」

地元公共団体の芸術文化経費

芸術文化経費（予算）の決算額（都道府県＋域内市町村文の合計）について見ると、平成 9 年度では 7,373 百万円、平成 22 年度では 5,356 百万円となっており、2,017 百万円となっています。平成 22 年度の全国平均は 5,132 百万円であり、全国平均と比較すると + 224 百万円となっています。

一方、都道府県のみでの決算額を見ると、平成 9 年度では 2,499 百万円、平成 22 年では 1,350 百万円となっており、1,149 百万円となっているものの、平成 22 年度の全国平均 1,285 百万円と比べ + 65 百万円となっています。

芸術文化経費の決算額（単位：百万円）

* 都道府県＋域内市町村分の合計額

年度	H 9	H 1 4	H 1 9	H 2 2
群馬県 [全国順位]	7,373 [第14位]	6,394 [第14位]	4,445 [第17位]	5,356 [第13位]
全国計	317,427	304,361	244,176	241,209
全国平均	6,754	6,476	5,195	5,132

* 都道府県のみ

年度	H 9	H 1 4	H 1 9	H 2 2
群馬県 [全国順位]	2,499 [第7位]	2,628 [第7位]	1,437 [第13位]	1,350 [第12位]
全国計	79,991	72,902	58,762	60,407
全国平均	1,702	1,551	1,250	1,285

（資料）文化庁「地方における文化行政の状況」

3 県民等の文化行政に関する意識調査結果

(1) 調査の目的

群馬県文化振興指針(仮称)の策定にあたって、本県の文化行政に対する県民等の意識を調査しました。

(2) 調査対象

アンケート調査

個人

- ・ 県内在住の満20歳以上の男女(県民)
2,000標本 513標本(回収率25.7%)
- ・ 県内大学生
400標本 209標本(回収率52.3%)
- ・ 県内高校生
401標本 401標本(回収率100%)

企業

- ・ 群馬県内に本社を置く企業、
直近(平成23年3月末まで)の売上高10億円以上
1,500標本 381標本(回収率25.4%)

文化団体

- ・ 県民芸術祭参加団体、市町村文化協会、県の後援事業実施団体、
過去に県が助成した団体、文化芸術・まちづくりNPO法人
400標本 186標本(回収率46.5%)

文化施設

- ・ 文化ホール61施設及び美術館・博物館等82館(県立を含む)
143施設 83標本(回収率58.0%)

聞き取り調査

- 21カ所 県有施設 942標本、県有施設以外 1,086標本
「県有施設」及び「県有施設以外」の区分は、聞き取り調査
を実施した場所
「県有施設」は、県立美術館・博物館5館、県有施設5施設
「県有施設以外」は、商業施設3施設、観光施設3施設、観
光地3ヶ所、中心市街地2ヶ所

< 調査期間 >

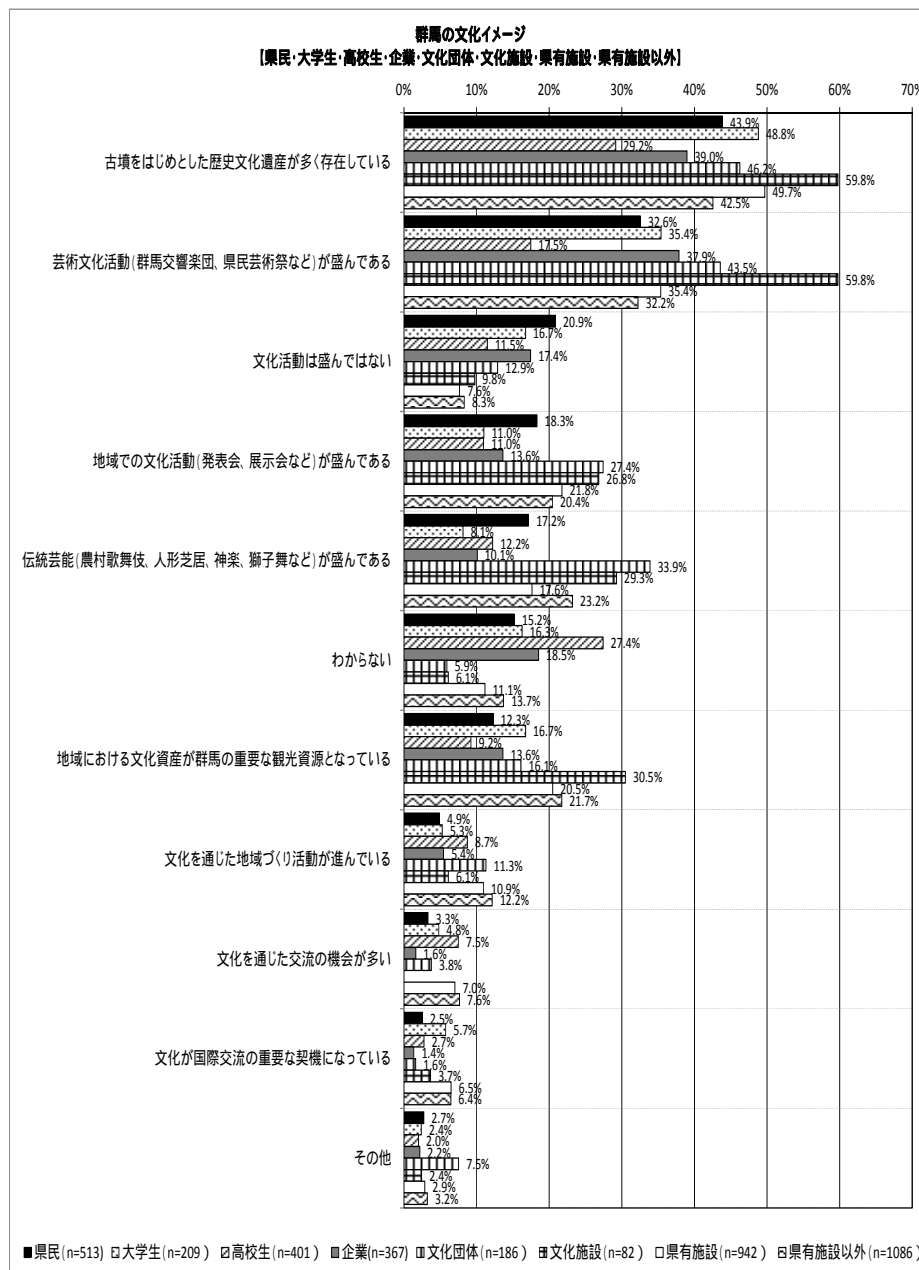
- 1 アンケート調査 平成24年7月~8月
- 2 聞き取り調査 平成24年7月~8月

【アンケート概要】

1 群馬の文化イメージ

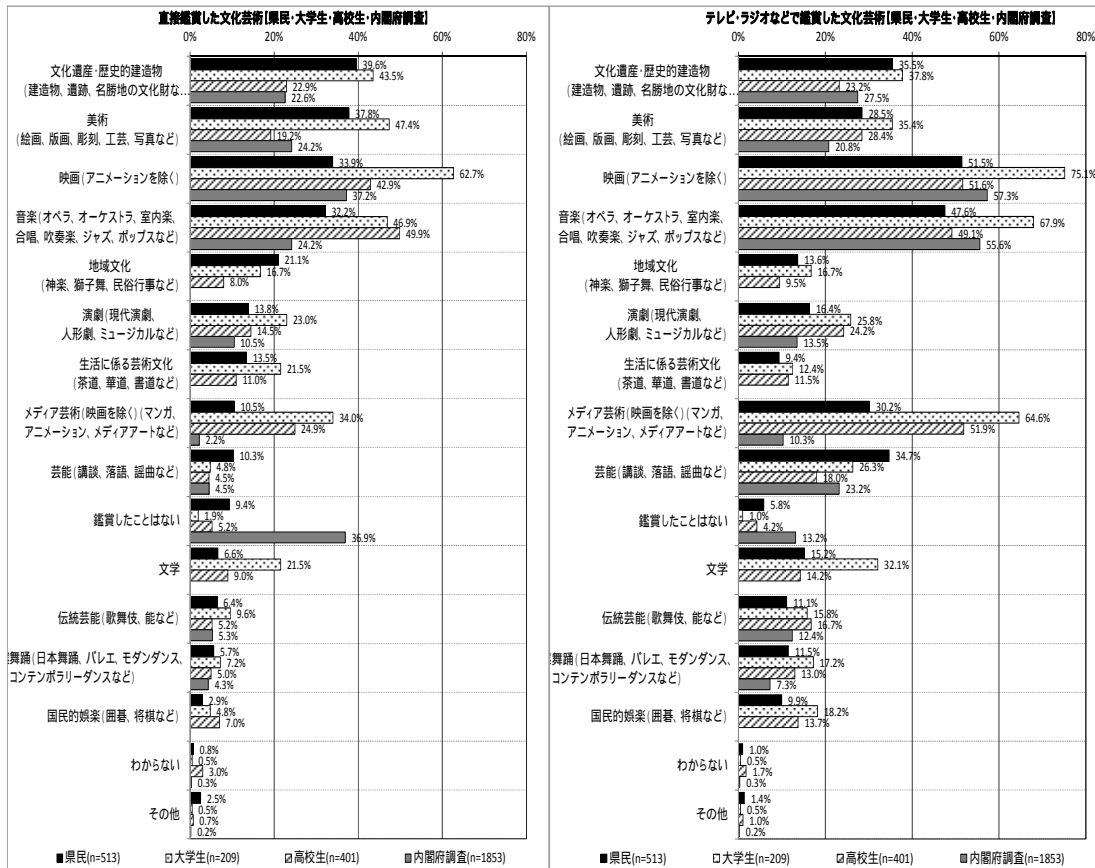
全区分において「古墳をはじめとした歴史文化遺産が多く存在している」(県民 43.9%)が最も高い割合となっており、次いで高校生を除き「芸術文化活動(群馬交響楽団、県民芸術祭など)が盛んである」(県民 32.6%)となっています。

一方、「地域の文化資産が群馬の重要な観光資源となっている」(県民 12.3%)や「文化を通じた地域づくり活動が進んでいる」(県民 4.9%)と回答した割合は低く、地域の文化資産が観光・地域振興に結びついていないことがうかがえます。



2 この1年間に鑑賞した文化芸術

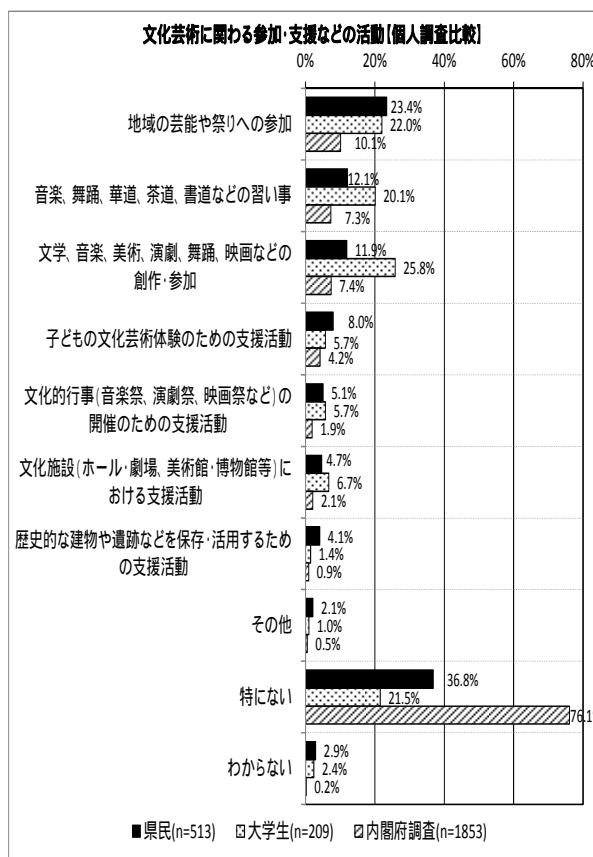
直接鑑賞した文化芸術は、県民では「文化遺産・歴史的建造物」(39.6%)、大学生では「映画」(62.7%)となっています。一方、テレビ・ラジオなどで鑑賞した文化芸術は、全ての区分において「映画」が最も多くなっています。



3 この1年間に文化芸術に関わる参加・支援などの活動

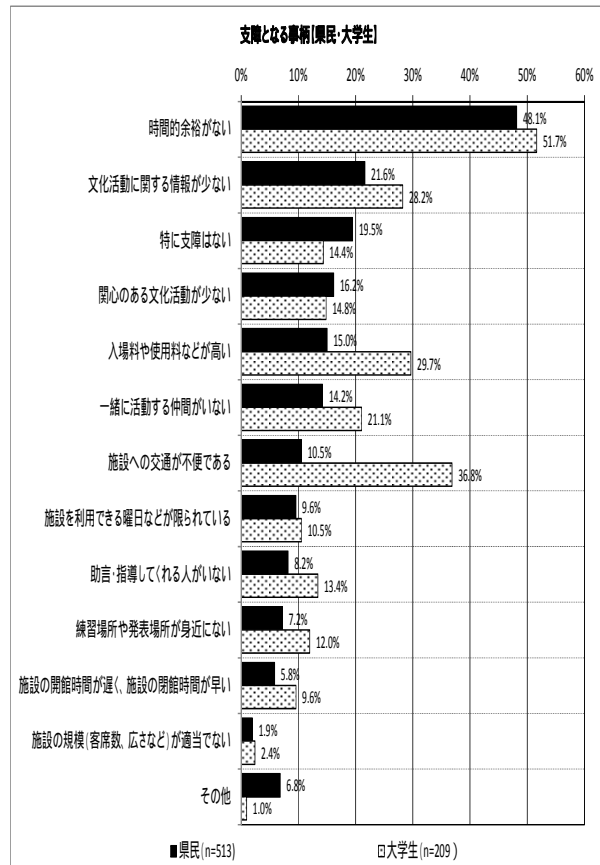
県民では、「地域の芸能や祭りへの参加」(23.4%)、「音楽、舞踊、華道、茶道、書道などの習い事」(12.1%)の割合が高く、大学生では、「文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画などの創作・参加」(25.8%)、「地域の芸能や祭りへの参加」(22.0%)の割合となっています。

また、内閣府調査では、「特にない」(76.1%)となっていますが、今回の調査からは、「特にない」(県民36.8%、大学生21.5%)となっており、県民が文化活動に積極的に参加していることがうかがえます。



4 文化芸術活動を行う上での支障

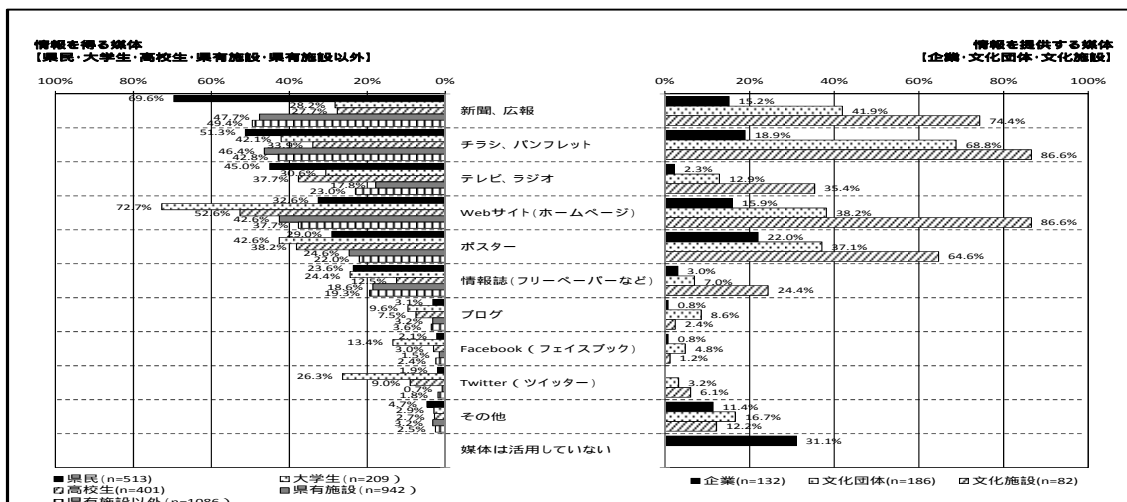
「時間的余裕がない」が県民(48.1%)、大学生(51.7%)ともにそれぞれ1番高くなっていますが、「施設への交通が不便である」では、県民(10.5%)と大学生(36.8%)では、26.3ポイントもの差があります。



5 文化芸術活動に関する情報媒体

情報を得る媒体として、「新聞、広報」が県民(69.6%)、県有施設(47.7%)、県有施設以外(49.4%)で最も高く、また、「Web サイト」が大学生(72.7%)、高校生(52.6%)で最も高くなっています。

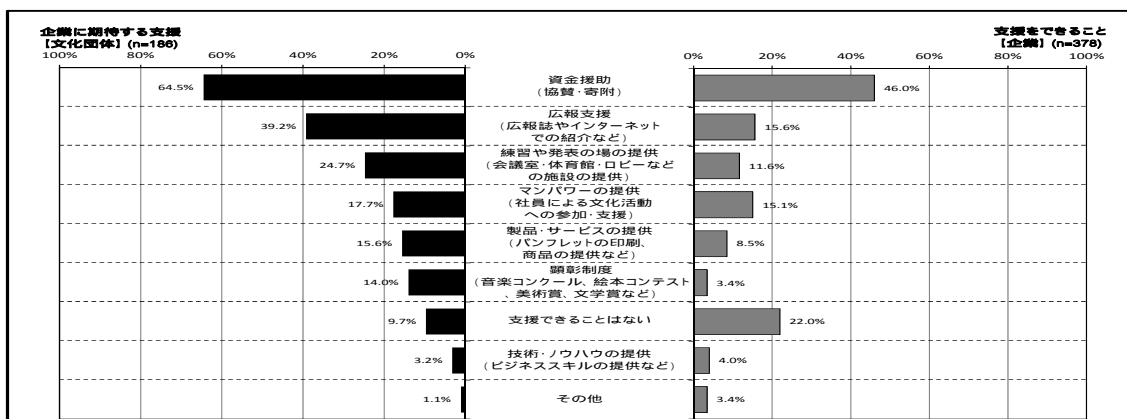
これに対し、情報を提供する媒体は、企業では「媒体は活用していない」(31.1%)、文化団体では「チラシ、パンフレット」(68.8%)、文化施設では「チラシ、パンフレット」「Web サイト」(86.6%)となっており、情報の提供・取得する媒体において相違があることがうかがえます。



6 文化団体が企業に期待する支援と企業ができる支援

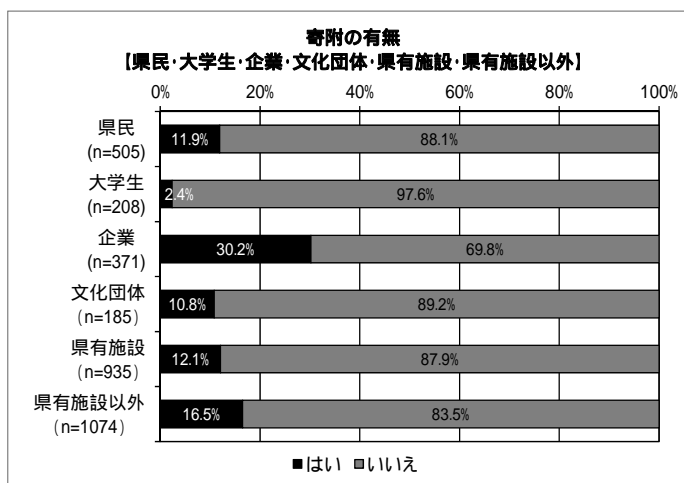
文化団体が企業に期待する支援は、「資金援助」(64.5%)が最も高く、次いで「広報支援」(39.2%)となっています。

これに対し、企業が支援をできることでは「資金援助」(46.0%)が最も高く、次いで「支援できることはない」(22.0%)、「広報支援」(15.6%)となっており、文化団体の要望と企業が支援をできることはある程度合致していることがうかがえます。



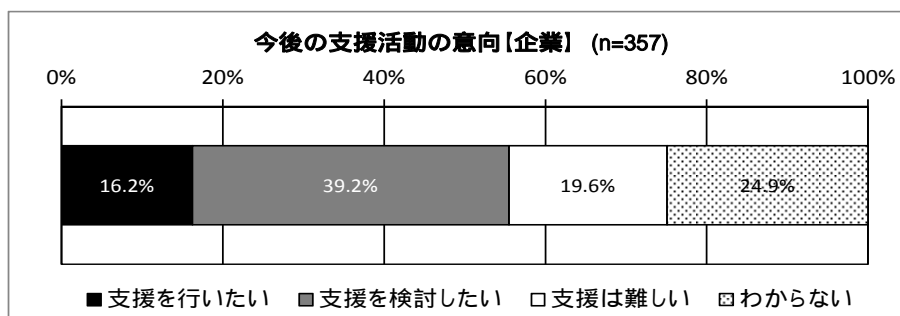
7 この1年間の文化芸術活動に関わる寄附

企業については30.2%が寄附をしたと回答しており、県民では約1割の人が寄附をしています。



8 県民の文化活動に対する今後の支援

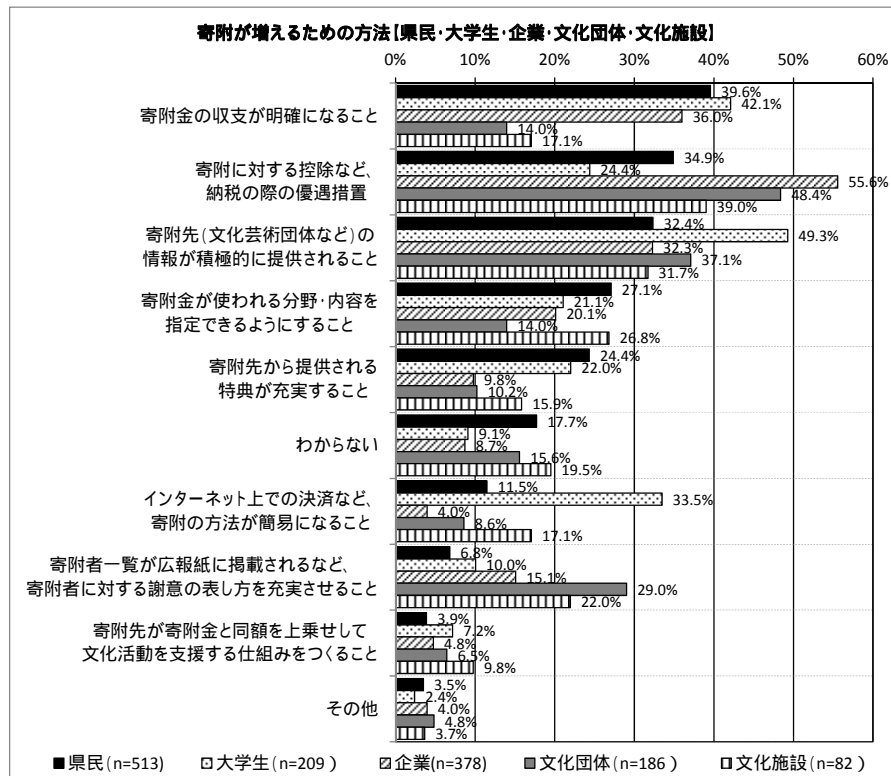
「支援を行いたい」と「支援を検討したい」を合わせると5割を超えており、県民の文化活動に対する支援を前向きに行いたいと回答しています。



9 文化芸術活動に関わる寄附を行う人や企業を増やすための方法

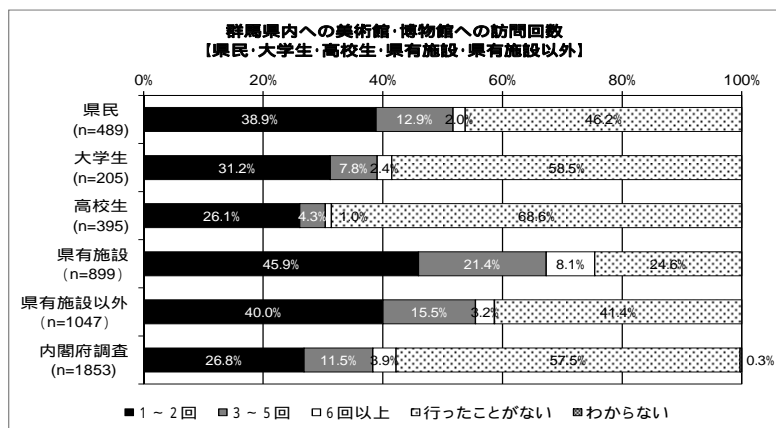
県民では「寄附金の収支が明確になること」(39.6%)、大学生では「寄附先の情報が積極的に提供されること」(49.3%)となっています。

他方、企業(55.6%)、文化団体(48.4%)、文化施設(39.0%)では「寄附に対する控除など納税の際の優遇措置」が最も高くなっています。



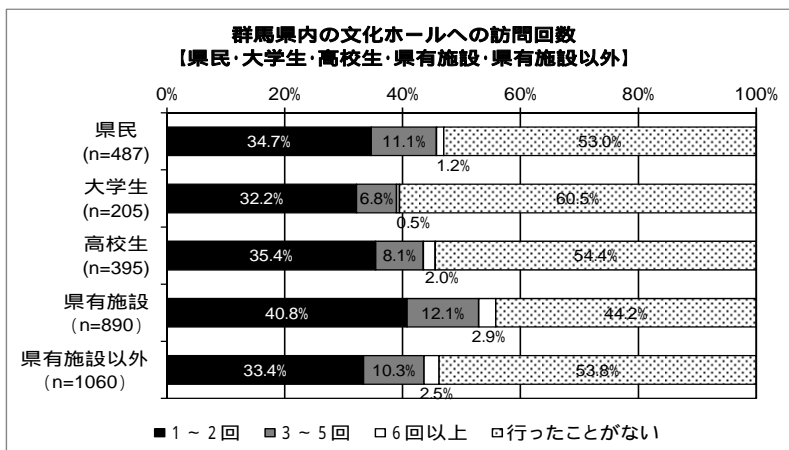
10 この1年の美術館・博物館の利用回数

県民(53.8%)、県有施設(75.4%)、県有施設以外(58.7%)とも、半数以上の人がこの1年間に美術館・博物館を1回以上利用したことがあると回答しています。



11 この1年間の文化芸術の鑑賞などでの文化ホールの利用回数

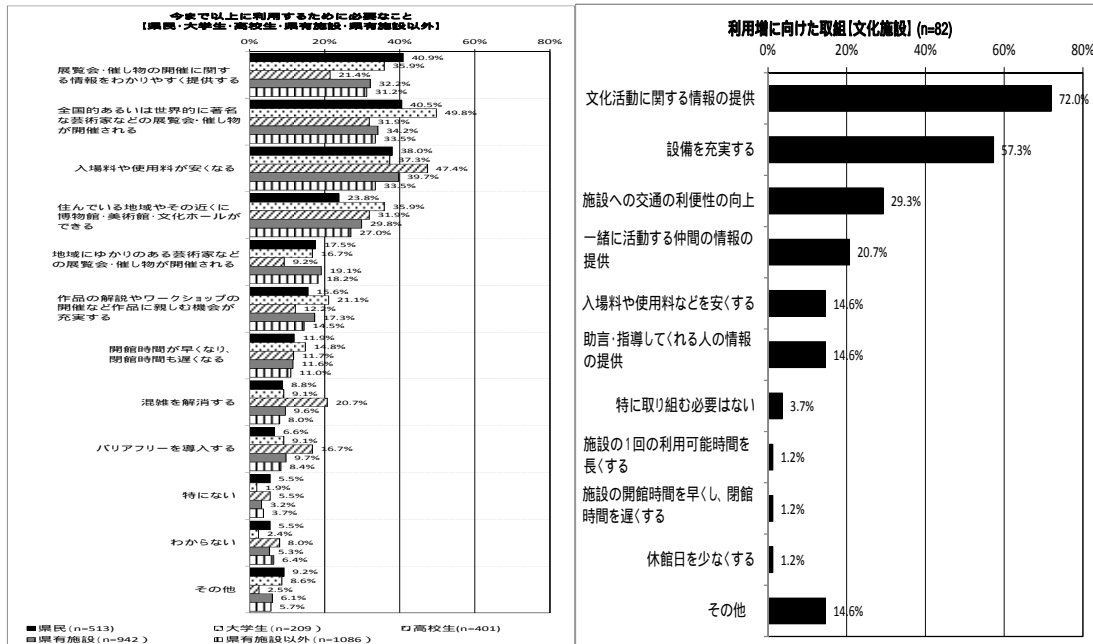
県民(47%)、県有施設(55.8%)、県有施設以外(46.2%)では、ほぼ半数近くの人がこの1年間に文化ホールを1回以上利用したことがあると回答しています。



12 今まで以上に、県内の美術館・博物館・文化ホールに行くために必要なこと

県民では「展覧会・催し物の開催に関する情報をわかりやすく提供する」(40.9%)、大学生では「全国的あるいは世界的に著名な芸術家などの展覧会・催し物が開催される」(49.8%)、高校生、県有施設、県有施設以外では「入場料や使用料が安くなる」がそれぞれ47.4%、39.7%、33.5%と、それぞれ最も高くなっています。

これに対し、文化施設の利用増に向けた取組では「文化活動に関する情報の提供」(72.0%)が最も高く、次いで「設備を充実する」(57.3%)となっています。

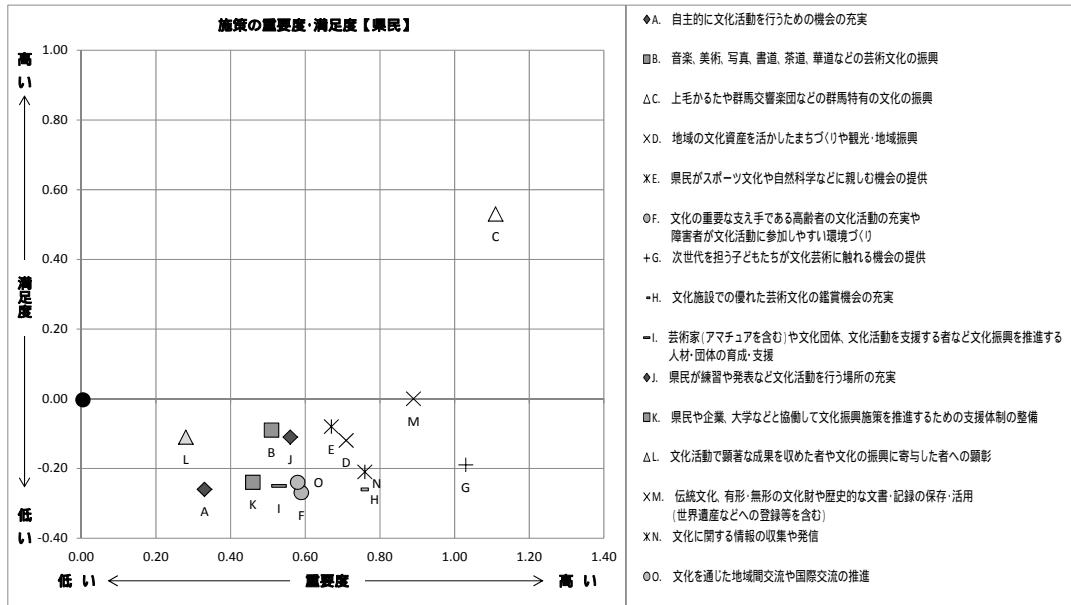


1.3 文化振興に関する施策の満足度と重要度

県民では「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高くなっています。

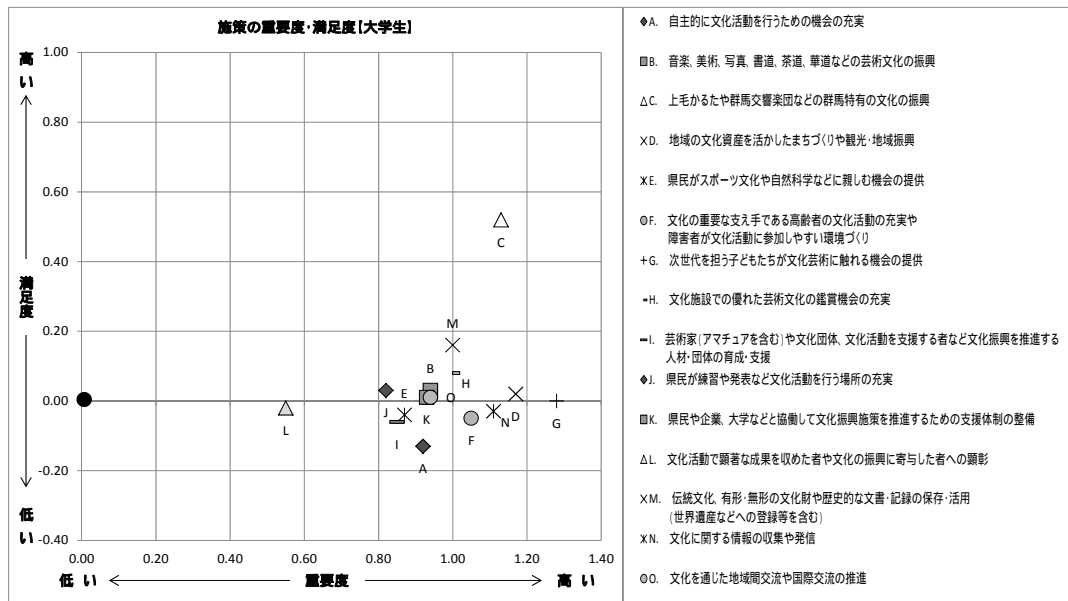
その他の項目については、重要度はすべて高くなっているが、満足度はすべて低くなる結果となりました。

中でも「次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供」は重要度は二番目に高いが、満足度はかなり低い結果となっています。



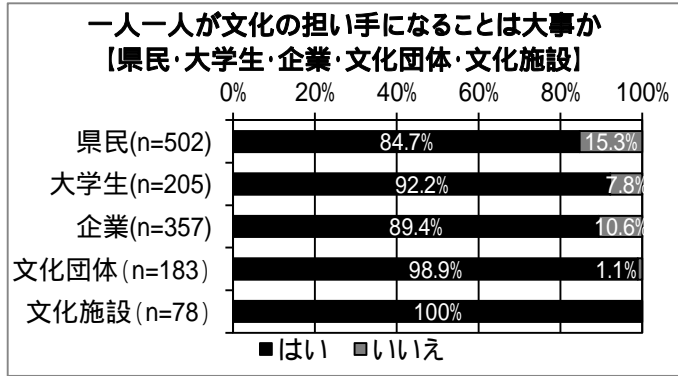
大学生でも「上毛かるたや群馬交響楽団などの群馬特有の文化の振興」が満足度・重要度ともに高く、次いで「伝統文化、有形・無形の文化財や歴史的な文書・記録の保存・活用（世界遺産などへの登録等を含む）」となっています。

重要度では「次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供」が最も高く、満足度では「自主的に文化活動を行うための機会の充実」が最も低くなりました。



14 文化の担い手について

一人一人が文化の担い手になることは大事だと思うかについては、全区分で「はい」を選択した割合が80%を超えており、一人一人が文化の担い手になることは大事だと考えている人が多いことがうかがえます。



15 文化活動の自主性を尊重しつつ、活動が継続して行われていくために必要なこと

すべての区分において「誰もが自主的に文化芸術活動に参加しやすい環境づくり」が最も高くなっており、次いで「文化活動を支援する人材や団体の育成」となっています。

県民、大学生、企業、文化団体、文化施設では県民の文化活動のために必要なことは同様の考えであることがうかがえます。

